鷹　ノ　巣

その名の如く大昔よりその岩窟に大鷹が巣を作り旧正月頃飛び来たり、春になりて卵を生み雛を育て、秋頃には又どことなく飛び去る。

この鷹は常に一組で何等人畜、農作物に危害を加えることなく村民は神のように敬い、吉凶を告ぐる鳥として誰一人弓をひく者なく、不思議なことに国内に何か変事でもあるときはそれ以前にどこともなく姿を消すので霊鳥とも呼んでいた。

又、下鷹ノ巣に巣を作る年は豊作であると、然るに同岩壁の下を昭和に入ってから林道が開通してから人馬の往来激しく、その年より飛び去りその姿を見ることができなくなったので村民の凡てが失望を感じていた。

この鷹は今は西郡の赤石山中にその勇姿を見せているとか。

栄光に輝く瑪耶渓
津軽十景首位当選

昭和三年八月一日より九月二十四日まで開かれた弘前新聞社主催津軽十景入選の投票が行われた。

弘前新聞社が一万号記念事業として発表した津軽十景投票は俄然人気を呼び、発表以来四十数日毎日の投票発表は如何に全津軽人の耳目を衝動せしめたか、郷土愛に燃ゆる人々の熱誠振りには只々驚嘆の外はなく各地の後援会有志の努力には主催側としても感謝に堪えなく、それなりに毎日の計算も緊張に緊張を重ね、一票たりとも誤算なからしむるべく検票したのでした。

特に瑪耶渓の如き天下の絶勝をこの祭天下に紹介せずんばあるべからずと保勝会を結成し、各地元民も策戦をこらして実に物凄き競争が演じられたのである。

秘められた謎の投票箱を開く度びに一喜一憂、一高一低をつづけたもので、立会人も時事、東奥各新聞記者、それに弘前警察署の警部にお願いして、最終決定をした。

最後の成績は、最高当選順

総投票数　九十一万二千三百九十二点

首位	一六八、二五一点	瑪耶渓
二位	一一一、三六一	座頭石
三位	一一〇、〇五〇	法　峠
四位	一〇五、〇七一	弘前公園
五位	八六、三八九	乳井神社
六位	七七、二六二	岩木山
七位	六六、九五三	芦野公園
八位	四八、六七三	愛宕山
九位	四八、三九二	御幸公園
十位	四三、二五二	久渡寺
次点	二二、〇七〇	大戸瀬

外は略す。

我が瑪耶渓は前記の如く第一位当選したので、保勝会を先頭に九月二十三日自動車三台に分乗し弘前市内を当選御礼廻り、次のようなビラを撒布し喜び溢れ帰村した。

配布した御礼のビラ（原文）

瑪耶渓当選御礼

花は桜木　景色は耶纔渓

今回は津軽名勝十景投票に際し、各位の多大なる御同情に依り御蔭様を以て首尾よく

第一位　十六万八千二百五十一票

にて当選の栄を得、誠に有難く略儀ながら紙上を以て謹んで御礼申上ます。

希くは之を記念に何卒御探勝下さいます様　併せて御待上ます。

昭和三年九月二十二日

東西目屋保勝会

各位様

鹿島神社は昔、村市毘沙門天といわれ、大同二年（八〇七年）今からおよそ一二〇〇年前坂上田村麿によってたてられたといわれ、安置されている仏像は坂上田村麿将軍が地方征服した際、仏柱という所より柱の木を伐りとり彫刻したものであると伝いられている。

出　典

豪雪山村開発総合センター記念

ふるさと西目屋